

2021年度
作曲コース作品発表会
第2夜

2021年 12月21日(火) 18:00開演
(17:30開場)

シルバーマウンテン1階

主催:洗足学園音楽大学・大学院

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。



Greeting ーごあいさつー

この度は作曲コース作品発表演奏会にお越しくださいませ、ありがとうございます。

作曲コースの学生は各自が求める音楽を自由に追求して表現していますが、

1年間の学修の成果として本コンサートで作品を発表します。

例年、古典の様式から現代の様式までさまざまな音楽様式がみられますが、

その多様性は現代の音楽文化の多様性を映し出すとともに、

本コンサート、そして作曲コースの魅力となっています。

昨年度は新型コロナウイルスの状況を鑑み、

オーケストラによる発表を行うことができませんでしたし、

学生は大きな編成の作品を避けざるを得ませんでした。

今年度、夏は感染状況も厳しい状況でしたが現在は落ち着いており、

オーケストラによる新作や編曲の発表を行うことができる環境にあります。

従来 of 音楽会の姿が戻ってきていることを実感するとともに、

学生が生き生きと作曲に励んでいる姿を見られることが何より喜ばしく思います。

とはいえコロナ禍の中、オーケストラはもとより

室内楽や独奏作品の演奏に携わっていただく指揮者や演奏者の方々には、

この場をお借りして御礼申し上げます。

それでは、作曲を追求する学生の成果をお楽しみください。

作曲コース アカデミックプロデューサー

清水 昭夫



Program —プログラム—

石原 快斗:騒く苔テラリウム

ファゴット:長谷川 舞花(学1)
ピアノ:高橋 美乃(学1)

—休憩—

板橋 文音:夜色抒情詩

フルート:鈴木 びあ乃(学1)
ピアノ:福田 ルアナ(学1)

佐藤 未羽:煌めきの中に

フルート:池上 晏珠(学1)
クラリネット:高橋 美乃(学1)
アルトサククス:山岸 芽以(学1)
バリトンサククス:新田 乙葉(学1)

瀧本 理夏:オーボエとピアノのための二重奏曲

オーボエ:入谷 栞(学1)
ピアノ:福田 ルアナ(学1)

藤崎 諒:流体の猫

クラリネット:成瀬 未涼(学3)
ピアノ:三浦 琢磨(学3)

蓮田 望美:陣中日記

ソプラノ:木内 育美(院1)
ピアノ:石崎 美希(学4)

平澤 祐輝:ピアノ三重奏曲 第1番

ヴァイオリン:兼子 萌花(学1)
チェロ:杏掛 雛乃(学1)
ピアノ:藤井 美佑(学1)

劉 鍵:フルートとピアノのためのソナチネ

フルート:清水 涼花(学4)
ピアノ:藤井 祐子(学3)

駒井 城惟:弦楽五重奏曲 第1番 ホ短調

ヴァイオリンI:三谷 月菜(学2)
ヴァイオリンII:小林 真子(学2)
ヴィオラ:米倉 海陽(学3)
チェロ:佐々木 七穂(学1)
コントラバス:嶋野 晴斗(学4)



Program Notes 一曲目解説

石原 快斗：騒く苔テラリウム

二部構成

私、映像や風景、文章等に脳内で音楽を付けたり、という事をかなり昔からして、この曲も例に漏れず映像のイメージを音楽に落とし込んだ曲です。

して何をモチーフにしたかと言いますと、端的に（曖昧に）言えば「C級ホラー(世間一般的意見や尺度に基づく)」です。

題の「騒く苔テラリウム」ですが、テラリウムというのが「ガラスなど光が通る透明な容器の中で生き物を育てる方法」と言う意味の造語で、「騒く」とは簡単に言えば「浮かれ騒ぐ」といった意味の単語です。

I:ある日、主人公は街中で偶然出会った魅力的な苔テラリウムを思い切って購入してみたが、II:実は、ソレは苔テラリウムに擬態した未知の〇×で、ヒトが寝静まった後動き出し.....といった感じのあらすじを想像して、時間的にはI:昼とII:夜です。各音の動きが何を示しているのか想像しながら聴いて頂きたいです。



<作曲家プロフィール>

群馬県立前橋高等学校卒業。中学、高校と吹奏楽部にてチューバを担当。趣味で作曲をするも、特に何処かで発表することも無く今に至る。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース1年在学中。

板橋 文音：夜色抒情詩

この曲はタイトルにある通り、夜の情景をイメージした曲です。

日が沈んだ後の少し怪しげな夜、澄んだ空気の上の星空がだんだんと目まぐるしくなる様子、日が昇るまでを一曲にしました。

夜色は本来(やしよく)という読みで「夜の景色」という意味の単語ですが、今回は夜色(よるいろ)抒情詩というタイトルをつけました。

是非、暗闇の中に見える夜の色を楽しんでいただければと思います。



<作曲家プロフィール>

東京都出身。東京都立墨田川高等学校卒業。作曲を松下倫士、伊藤康英に師事、トロンボーンを五箇正明に師事、ピアノを岸本伸子、三瓶弥生の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース1年在学中。

瀧本 理夏：オーボエとピアノのための二重奏曲

今回は人生で初めてピアノ以外の曲を作曲しました。オーボエの澄んだ木の響きが好きで、以前からオーボエの曲を書いてみたいと思っていたので良い機会になりました。

今回はソナタ形式で書きました。オーボエの響きや音域を活かす旋律を考えることにとっても苦戦しました。

今まで二重奏も書いたことがないので、ピアノが二重奏というよりもオーボエの伴奏になってしまっているような気がしてなかなか進まないこともありましたが、色々な二重奏曲を聴いてなんとか書き上げることができました。

今回演奏してくださる入谷さん、福田さんに心より感謝いたします。



<作曲家プロフィール>

東京都出身。多摩大学附属聖ヶ丘高校卒業。幼少期よりクラシックピアノを西嶋薫氏に師事。これまで作曲を由雄正恒、松浦真沙、作曲理論を木下淳雄の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース1年在学中。

蓮田 望美：陣中日記

曾祖父である蓮田善明の著書「陣中日記」の詩を用いて作曲した。「想い」「偶詩」「紙風船」の3曲で構成されている。

「陣中日記」はその名の通り、曾祖父が戦地に赴いた際に書かれた作品である。いずれの詩も情景が目浮かぶような詩である。しかし、文学的背景を鑑みると、作曲に際して、ただの美しい曲に仕上げるわけにはいかなかった。

曾祖父は中学教師であったが、古典研究への想いやみがたく、教職を辞して広島文理科大学へと進学。

「みやびの精神」を追求した曾祖父の作品はいつも「死」とともにあった。それは、前向きな「死」である。

「如何に生くべきか」と「如何に死すべきか」。この2つの問いの本質は表裏一体であると、曾祖父は考えていたようだ。「陣中日記」は、おそらく死を覚悟した者の立場からみた景色そのものであろう。しかし、曾祖父にとっては、同時に最も「生」を実感し得た時だったようである。

前述の通り、「ただの美しい曲」にならないように作曲したつもりである。戦時体制下にあって古典の伝統の復活を説いた曾祖父の作品は、戦後黙殺の状態であったが、その時代から距離を置いた今、微力ながら作品に新たな息吹をもたらすことができれば幸いである。



<作曲家プロフィール>

カナダ出身、日本人の父と香港人の母をもつ。日本に帰国後、九州にて学生生活を送る。真和高等学校(熊本県)卒業。作曲を齋藤圭子、相澤直人に師事、ピアノを新屋里沙、古川貴子に師事、バイオリンを中一乃に師事。

現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース1年在学中。その他、混声合唱団 Albaporta 団員として活動中。

平澤 祐輝：ピアノ三重奏曲 第1番

ピアノ、ヴァイオリン、チェロの三重奏曲を書きました。この曲は、ソナタ形式で、明るい曲調、古典派のイメージを目指して作りました。今回、初めての発表会のための曲ということで、どういった編成、曲調にしようか迷いましたが、ここ最近ベートーヴェンの研究をし、とても刺激を受けたので、それを表現しました。



<作曲家プロフィール>

埼玉県出身。ピアノを4歳で始める。作曲を清水昭夫、和声を照屋正樹、ピアノを平澤匡朗に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース1年在学中。

佐藤 未羽：煌めきの中に

この曲は私自身が実際に見た夢からインスパイアされています。

とある小さな町にお姫様がいました。お姫様には思いを寄せる王子様がいました。王子様になかなか気持ちを聞く勇気が出ないと思っていたある日、こんな噂を耳にします。「聴くと運命の人が分かる曲がある。

しかし聴いた人は曲が終わった途端命が尽きてしまう」お姫様は心の中で葛藤しましたが自分の本当の運命の人を知りたいと思い、その曲を聴いてしまいます。

するとお姫様の頭上からゆっくりとキラキラした宝石が落ちてきました。お姫様は宝石に手を差し伸べます。すると宝石の中に顔が映し出されました。映し出された人、それはお姫様が思いを寄せていた王子様だったのです。お姫様は本当はこの曲を聴かずに幸せになれる運命でした。運命の人が自分の想い人だったという幸福感、しかしこの世を去らなくてはならないという絶望感が心の中をぐるぐる駆け巡る中、お姫様は息絶えたのでした。

ロンド形式になっていて場面の切り替わりが分かりやすいと思います。是非この物語を想像しながら聴いていただきたいです。



<作曲家プロフィール>

宮城県出身。常盤木学園高等学校音楽科卒業。5歳からエレクトーンを習い8歳で「組曲アイス」を作曲。常盤木学園高等学校在学中に宮城県小・中・高等学校児童・生徒作詞・作曲コンクール作曲部門にて優良賞受賞。これまでにエレクトーンと作曲を黒澤真紀、ピアノを鎌田朋恵、作曲と和声学を木島由美子の各氏に師事し、現在は作曲、および作曲理論を松下倫士氏に師事。洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース1年在学中。

藤崎 諒：流体の猫

今回は、何気ない授業の中で耳にした「猫は液体」という言葉に着想を得て、その身体の異様な柔軟さから冗談で不定形生物と称されることもある「猫」をテーマに作曲しました。

「猫」という生き物のイメージを音楽として掴まえることには苦労しましたが、自分なりになんとか和解してみたつもりです。可愛らしく、優雅で、時には凶暴な一面や謎めいた雰囲気を見せ、前述の通り不定形生物と称されることもある不思議な生き物、という僕の考える猫らしさをクラリネットの4つの音域による多彩な音色や、ピアノのきらめくような響きと表情豊かな表現で描写しようと試みた作品となります。



<作曲家プロフィール>

東京都出身。18歳より打ち込みでの作曲を行い、創作活動を開始する。音楽家を目指し、東洋大学文学部を中退。作曲を小谷野謙一、ピアノを吉武雅子の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース2年在学中。

劉 鍵：フルートとピアノのためのソナチネ

この曲は、シンプルなテーマと、それに纏うシンプルな和声が、さまざまに変化して進展し、最後にテーマを再現して締めくくります。私の裡にある真摯な感情を、シンプルに表現しました。



<作曲家プロフィール>

1998年、中国・広州生まれ。工商学院中退。17歳よりサクソフォンを学ぶ。2019年夏に来日し、作曲とピアノの本格的な勉強を始める。作曲を佐藤昌弘、和声を市川景之、ピアノを山本佳世子の諸氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース2年在学中。

駒井 城惟：弦楽五重奏曲 第1番 ホ短調

私はよく、お風呂や登下校など、一人で無心になれる時間によくメロディーが浮かんでくることがあります。

この曲も、いつの日か浮かんできたメロディーを第1主題として、膨らませて書いてみました。また、前回、前々回とは違い、標題音楽のようなものではなく、単に五重奏曲として書きました。なにかモチーフとした印象や事物等はありません。6/8、9/8、12/8拍子を行ったり来たりしながら、いろんな雰囲気を漂わせるような曲になっていると思います。時にリズムカルな、時流れるような、豊かに変化していく音楽を、ぜひお楽しみください。



<作曲家プロフィール>

山梨県出身。山梨県立北杜高等学校卒業。中高6年間吹奏楽部に所属し、打楽器を担当。また、高校、大学では編曲にも取り組んでおり、学内や学外の各所で演奏されている。作曲を伊藤康英、作曲理論を清水昭夫、松下倫士、打楽器を小川佳津子の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース2年在学中。